新聞　朝日　第3種郵便物認可　2014.9.10(水)

高校生向け自衛官募集パンフレット

提供元に県教委連名

高校生の就職活動解禁の7月1日に合わせて、県内の高校3年に送られた自衛官募集のリーフレットに、今年から県教育委員会が名を連ねた。関係者は「教委が入隊を勧めているようだ」と懸念している。

集団的自衛権行使容認 時期重なり、反発も

県内で郵送されたリーフレット「みなさんの自衛隊」の表紙下部には「自衛隊三重地方協力本部」に加えて「三重県・三重県教育委員会」とある。昨年までは「自衛隊」と、募集事務を国から受託する「県」のみだったが、今年からは自衛隊の依頼で「県教育委員会」が加えられた。自衛隊三重地方協力本部（津市）は「自衛隊を知ってもらうために県教委も協力していることを示すため」と説明する。

「みなさんの自衛隊」と題したリーフレットやＡ４判のパンフレット。表紙下のクレジットには今年から県教委が加わった

県教委は昨年7月、防衛相から県あてに出された募集の協力依頼を受けていたため、今年3月上旬、新年度分のリーフレットで連名することを承諾。担当者は「ほかの職業と比べ突出している訳ではなく、あくまで情報提供の協力。進路の誘導とは考えていない」としている。ただ、他機関のパンフレットに県教委のクレジットが入っている例はないという。

また、みえ教育ネットワーク教職員ユニオンによると、自衛隊のパンフレットへの県教委の連名は全国的にも例がないという。

だが、これまでの日本の平和主義の大転換になる集団的自衛権の閣議決定に重なっただけに、不安の声も出ている。

同ユニオンは5日に県教委に対して抗議。元県議（共産）の萩原量吉さんは「ある意味では県教委も『自衛隊に入ろう』と呼びかけているように受け止められる。戦前の教訓がある教育現場としては、中立を保つべきだ」と話す。

全国的には、パンフの発送が7月1日の安倍政権による集団的自衛権の行使容認の閣議決定に重なり、ネット上では「自衛隊からスカウト。集団的自衛権の影響？」「赤紙が来た感じ」などと話題になっていた。

担当者は「まさか閣議決定と重なるとは。偶然だがタイミングが悪かった」と話した。（畑宗太郎）

● 三重県教育委員会が『みなさんの自衛隊』という自衛官募集のパンフレットに自衛隊三重地方協力本部の上に名前を連ね、「知れば知るほど誇れる仕事」と推奨し、三重県知事もその中で登場しています。自衛隊に仕事を求めるのは特別のように思っていた時代とは隔世の感があります。

2回の県教育委員会との交渉や情報公開で分かってきたことは、事態は去年内に準備され、防衛省→知事→県庁地域連携部→教育長と依頼は通り、実務は前キャリア教育班松岡某が課長に上げないで判断したことになっていますが、この間の各団体の抗議に県教委はかなり焦っています。自衛隊の求人を企業フェアと対等にしてあげたいという「えこひいき」がバレたのです。しかし、交渉時「自衛隊はシビリアンコントロールだ。今の安倍政権が動かすのだ」と追求すると、能弁な担当者もそのことは否定できませんでした。

防災・災害派遣・国際貢献の先に、殺し殺されることを「知れば知るだけこわい仕事」なのです。　2014.9.24（水）